

アカマダラは関西地区では比較的容易に出会えるサカハチチョウとあまりによく似たチョウで、北海道にしかいなく分布が広くないようでどこでも会えるわけではない。また、どこに行けば確実に会えるという場所も知らない。そんな蝶とは1976年の北海道家族初旅行で宿泊した温根湯の朝、バスが発券する前にコムラサキと一緒に採集したのが初の出会い。次はずっと年数を経た1997年、オオイチモンジを求めて初めて遠征した北海道の瀬戸瀬温泉で再会しているが、記憶が新しいうちに記述したはずの紀行文中には全くその記録が示されない。そこで手元に確かに残る三角紙標本のデータをもとに埋め合わせ記述を試みる。



July 29, 1976
北海道温根湯
leg. M. Shimazaki

July 22, 1997 北海道瀬戸瀬温泉

さて陽射の明るい堰堤の方はどうか、と視点を変えたそのとき、どこからともなく雄大なオオイチモンジが滑空しながら現われ、堰堤下流の川面に降りてどこかに静止する。オオイチモンジはちょうど真正面に見下ろせる川原の中央部で羽を広げている。どこから川面に降りようかとうかがっているうちに、オオイチモンジは突然飛び立ち、ぐるりと大きく旋回したかと思うとなんとすぐ目の前の堰堤コンクリート面に止まって日向ぼっこを始める。まず自然体を Video でという余裕のないのが情けないが、ゆっくりネットを準備して伏せ込み新鮮体ではないがまずまずの♂を初めてしとめて感激。オオイチモンジの集団吸水場面にも出くわせば、いい映像が撮れることだろう。

かくして目的のオオイチモンジを捕獲できた当日、路傍の花々に群がるコヒオドシに混じってアカマダラも求蜜しており、その時にはサカハチチョウとの判別が難しい種なのでとりあえずあとで同定をするつもりで数個体を捕獲。帰宅後に後翅角の出っ張りを特徴として間違いなくアカマダラだと同定している。つい最近では2017年7月に愛山溪のヒメジョオンを訪れた本種かもしれないチョウをたくさん見たがすべてサカハチチョウであって、やはりアカマダラは北海道特産だからといってどこにもいる種ではないなど実感。サカハチチョウとの区別ができるようにアルバム形式の標本も図示したが、後翅角の出っ張り以外に、前翅表の縦に伸びる白帯がアカマダラにお



July 22, 1997
北海道瀬戸瀬温泉
アカマダラ
leg. M. Shimazaki



June 25, 1996
北海道愛山溪
サカハチチョウ
leg. M. Shimazaki



July 22, 1997
北海道瀬戸瀬温泉
アカマダラ
leg. M. Shimazaki



July 22, 1997
北海道瀬戸瀬温泉
アカマダラ
leg. M. Shimazaki



July 13, 2017
北海道富良野市
サカハチチョウ
leg. M. Shimazaki

いて内側へと傾斜するのに対し、サカハチチョウではほぼ垂直方向となっている点が簡便な判定指標になることがわかる。